

Hinemos® ver.3.1  
インストールマニュアル  
第 1.4 版

2011 年 3 月 25 日

株式会社 NTTデータ

変更履歴

版	変更日	変更内容
1.0	2009/4/13	Hinemos Ver3.1.0 インストールマニュアル初版リリース
1.1	2009/6/16	Windows Vista への Hinemos クライアントインストール方法について追記
1.2	2009/6/16	クライアント・エージェントが別セグメントに属する環境での注意点について追記
1.3	2010/1/14	3.2.2 PostgreSQL の起動確認方法を修正 3.5.2 ファイルディスクリプタ上限値の設定変更方法を記載 3.5.3 データソースの設定変更方法について記載 5.2.5 ジョブエージェント停止処理における実行中ジョブのログ出力について記載
1.4	2011/3/25	2.2 対応 OS に Oracle Enterprise Linux を追加 2.3 対応 OS に Oracle Enterprise Linux を追加 2.3 対応 OS に Windows Server 2008 R2 を明記 2.3 Windows の Service Pack は問わない旨を記載 2.4 Windows の Service Pack は問わない旨を記載

---

目次

1. はじめに.....	6
2. 前提条件.....	6
2.1. システム構成.....	6
2.2. マネージャサーバ.....	8
2.3. 管理対象ノード.....	8
2.4. クライアント.....	10
2.5. ネットワーク条件.....	11
2.5.1. マネージャ使用ポート.....	11
2.5.2. 管理対象ノード使用ポート.....	11
2.5.3. Hinemos 関連コンポーネント間の接続について.....	12
2.5.4. 負荷分散装置およびファイアウォールを使用した環境での注意点.....	13
2.5.5. アドレス変換 (NAT や NAPT など) を使用した環境での注意点.....	13
2.5.6. クライアント・エージェントが別セグメントに属する環境での注意点.....	13
2.6. ライセンス.....	15
2.7. インストール・動作のための注意事項.....	18
2.7.1. Hinemos マネージャ.....	18
2.7.2. Hinemos エージェント.....	18
3. マネージャサーバ.....	20
3.1. Hinemos マネージャのインストール.....	20
3.1.1. ファイルの展開.....	20
3.1.2. インストーラの実行.....	20
3.2. Hinemos マネージャの起動.....	27
3.2.1. 起動方法.....	27
3.2.2. 起動の確認.....	27
3.3. Hinemos マネージャの停止.....	28
3.3.1. 停止方法.....	28
3.3.2. 停止の確認.....	29
3.4. Hinemos マネージャのアンインストール.....	29
3.4.1. ファイルの展開.....	29
3.4.2. アンインストール.....	30
3.5. 注意事項.....	31
3.5.1. syslog-ng の停止.....	31
3.5.2. ファイルディスクリプタの設定.....	32
3.5.3. データソースの設定.....	32
4. 管理対象ノード (Windows).....	34

---

---



---

5.	管理対象ノード (Red Hat Enterprise Linux) .....	35
5.1.	Hinemos エージェントのインストール .....	35
5.1.1.	ファイルの展開.....	35
5.1.2.	インストーラの実行 .....	35
5.2.	Hinemos エージェントの起動と停止.....	39
5.2.1.	Hinemos ジョブエージェントの起動 .....	39
5.2.2.	Hinemos ログ転送エージェントの起動.....	39
5.2.3.	syslog-ng の起動.....	39
5.2.4.	NET-SNMP の起動 .....	39
5.2.5.	Hinemos ジョブエージェントの停止 .....	39
5.2.6.	Hinemos ログ転送エージェントの停止.....	40
5.3.	Hinemos エージェントのアンインストール.....	40
5.3.1.	ファイルの展開.....	41
5.3.2.	アンインストール.....	41
6.	クライアント (Windows XP) .....	44
6.1.	Hinemos クライアントのインストール .....	44
6.1.1.	インストーラの実行 .....	44
6.2.	Hinemos クライアントの起動.....	48
6.3.	Hinemos クライアントのアンインストール.....	49
7.	クライアント (Windows Vista) .....	50
7.1.	Hinemos クライアントのインストール .....	50
7.2.	Hinemos クライアントの起動.....	51
7.3.	Hinemos クライアントのアンインストール.....	51

本ソフトウェアは独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の2004年度下期オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業の委託を受けて開発しました。

テーマ名は「分散ファシリティ統合マネージャの開発」です。

<http://www.ipa.go.jp/software/open/2004/result.html>

## 商標

Hinemosは、(株)NTTデータの登録商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中には TM、®マークは表記しておりません。

本マニュアルについては、GPL の下で配布されていません。

本マニュアルの使用には、以下の条件が適用されます。

- 内容の変更、編集は許可されません。
- 例えば印刷物の販売や出版物に本マニュアルの一部を記載する場合は、事前に株式会社 NTT データとの契約・合意を必要とします。

## 1. はじめに

本マニュアルでは、**Hinemos** のインストール方法とインストール後の設定方法について説明します。本マニュアルでの設定は一例であり、実際に使用される際はご利用の環境のセキュリティポリシーに沿って設定を変更して使用されることをお勧めします。本ソフトウェアの使用により生じたいかなる損害に対しても、弊社は一切の責任を負いません。

## 2. 前提条件

### 2.1. システム構成

**Hinemos** は、マネージャサーバ、管理対象ノード、クライアントから構成されます。

- マネージャサーバ

**Hinemos** の運用管理機能を提供するサーバです。管理対象の情報を保持したりポジトリと各機能で扱うデータを保管するデータベースを保持します。

マネージャサーバに導入されるソフトウェアを本マニュアル中では **Hinemos** マネージャと表記します。

- 管理対象ノード

**Hinemos** の管理対象となるマシンです。

管理対象ノードに導入されるソフトウェアを本マニュアル中では **Hinemos** エージェントと表記します。

- クライアント

オペレータが利用する操作端末です。**Hinemos** は GUI ベースのクライアントアプリケーションを提供します。

クライアントに導入されるソフトウェアを本マニュアル中では **Hinemos** クライアントと表記します。

**Hinemos** では、表 2-1 に記載のソフトウェアを利用しています。

マネージャの **JRE**, **JBoss**, **OpenLDAP**, **PostgreSQL**, **syslog-ng** は **Hinemos** マネージャパッケージにてインストールされます。メールサーバ、**FTP** サーバは別途セットアップする必要があります。

管理対象ノードの **JRE**, **syslog-ng** は **Hinemos** エージェントパッケージにてインストールされます (**Net-SNMP** は **ver2.4** からエージェントパッケージによりインストールされま

せん)。

クライアントの JRE, EclipseRCP, jfreechart は Hinemos クライアントパッケージにてインストールされます。

表 2-1 機能別連携ソフトウェア

機能	マネージャ	管理対象ノード	クライアント
基本セット (リポジトリ、監視管理機能)	JavaVM:JRE 1.5.0_15 JBoss 4.2.2.GA OpenLDAP 2.3.39 PostgreSQL 8.3.1 メールサーバ(イベントのメール通知を行う場合必要)	-	JavaVM:JRE 1.5.0_15 Eclipse RCP 3.3.2 jfreechart 1.0.9
ジョブ管理	-	JavaVM:JRE 1.5.0_15	
一括制御	FTP サーバ	リモートシェル (sshd/rshd) expect	
性能管理	-	Net-SNMP 5.1.2-11(RHEL4) Net-SNMP 5.3.1-19(RHEL5) tog-pegasus 2.5.1-6(RHEL4) tog-pegasus 2.7.0-2(RHEL5)	
syslog-ng 監視	syslog-ng 2.0.9	syslog-ng 2.0.9	



## 2.2. マネージャサーバ

Hinemos マネージャを稼働させるマシンとして、下記内容が推奨スペックとなります。

表 2-2 マネージャサーバの推奨スペック

ハードウェア	CPU : Xeon 2.4GHz 以上 メモリ : 2GB 以上 HDD : 5GB 以上 ネットワークコントローラ : 1 個以上 上記相当品
OS	Red Hat Enterprise Linux 5 (32bit) Oracle Enterprise Linux 5 (32bit)

## 2.3. 管理対象ノード

Hinemos エージェントの動作確認を行ったスペックは以下のとおりとなります。

表 2-3 管理対象ノードの動作確認済みスペック

ハードウェア	CPU : Intel 系 CPU (PentiumIII 以上) メモリ : 256MB 以上 HDD : 1GB 以上 (Hinemos に関する部分のみ) ネットワークコントローラ : 1 個以上 上記相当品
OS	Red Hat Enterprise Linux 4 (32bit) Red Hat Enterprise Linux 5 (32bit) Oracle Enterprise Linux 4 (32bit) Oracle Enterprise Linux 5 (32bit) Windows Server 2008 (64bit) ※一部機能制限あり Windows Server 2008 R2 (64bit) ※一部機能制限あり Windows Server 2003 R2 (32bit) ※一部機能制限あり Windows 2000 Advanced Server (32bit) ※一部機能制限あり

※ Windows の Service Pack は問いません。

Hinemos では、リソース監視、プロセス監視用の情報をデフォルトでは SNMP プロトコルで情報取得を行います。

設定変更を行うことにより、WBEM プロトコルで情報取得することが可能です。

Hinemos エージェントの全ての機能を利用するには、使用する機能に応じてあらかじめ以下の RPM パッケージがインストールされている必要があります。(括弧内は推奨バージョン)

- SNMP プロトコルで性能管理機能全般、監視管理機能（リソース監視、プロセス監視）を行う場合

デフォルトの SNMP プロトコルを使用する際に必要となるパッケージが以下となります。

◆Red Hat Enterprise Linux 4

- net-snmp (5.1.2-11.EL4.11 以降)
- net-snmp-libs (5.1.2-11.EL4.11 以降)

◆Red Hat Enterprise Linux 5

- net-snmp (5.3.1-19.el5 以降)
- net-snmp-libs (5.3.1-19.el5 以降)

- WBEM プロトコルで性能管理機能全般、監視管理機能（リソース監視、プロセス監視）を行う場合

WBEM プロトコルを使用する際に必要となるパッケージが以下となります。

(WBEM プロトコルでリソース監視、プロセス監視を実施しない場合は、以下のパッケージは不要となります。)

◆Red Hat Enterprise Linux 4

- tog-pegasus (2.5.1-6.el4 以降)
- sblim-cmpi-base (1.5.4-13a.el4\_6.1 以降)
- sblim-cmpi-fsvol (1.4.3-13a.el4\_6.1 以降)

◆Red Hat Enterprise Linux 5

- tog-pegasus (2.7.0-2.el5 以降)
- sblim-cmpi-base (1.5.5-31.el5 以降)
- sblim-cmpi-fsvol (1.4.4-31.el5 以降)

※WBEM への切り替え方法については、設定リファレンスの「SNMP・WBEM の切り替え方法」の項を参照ください。

- 一括制御機能全般
  - ◆Red Hat Enterprise Linux 4
    - expect (5.42.1-1 以降)
  - ◆Red Hat Enterprise Linux 5
    - expect (5.43.0-5.1 以降)

## 2.4. クライアント

Hinemos クライアントを動作させるマシンとして、下記内容が推奨スペックとなります。

表 2-4 クライアントマシンの推奨スペック

ハードウェア	CPU : Pentium 4 2.80GHz 以上 メモリ : 1GB 以上 HDD : 1GB 以上 (Hinemos に関する部分のみ) ネットワークコントローラ : 1 個以上 ディスプレイ解像度 : 1280×1024 以上 上記相当品
OS	Windows XP SP2 Windows Vista

※ Windows の Service Pack は問いません。

## 2.5. ネットワーク条件

### 2.5.1. マネージャ使用ポート

マネージャでは、表 2-5 マネージャサーバの待ち受けポートで示されるポートを使用します。

表 2-5 マネージャサーバの待ち受けポート

アプリケーション	TCP ポート	UDP ポート
syslog-ng	514	514
JBoss	1098, 1099, 3873, 4444, 4445, 4446, 4457, 8009, 8080, 8083, 24457	162 <sup>1</sup>
OpenLDAP	24000	
PostgreSQL	24001	

### 2.5.2. 管理対象ノード使用ポート

管理対象ノードでは、表 2-6 管理対象ノード使用の待ち受けポートで示されるポートを使用します。

表 2-6 管理対象ノード使用の待ち受けポート

アプリケーション	TCP	UDP	機能
sshd	22	-	一括制御機能 ジョブ管理（ファイル転送ジョブを利用の場合）
rshd (xinetd)	514	-	一括制御機能（リモートシェルの設定を rsh とした場合）
Net-SNMP	-	161	性能管理機能
tog-pegasus	5988	-	性能管理機能

rshd と syslog-ng は同一の TCP ポート番号を用いています。一括制御機能のリモートシェルを rsh とした場合に、マネージャを一括制御機能の操作対象にする際にはいずれかのポート番号を変更する必要があります（デフォルトである ssh を利用する場合には問題は生じません）。

<sup>1</sup> SNMP トラップ監視を使用する場合、OS に付属する snmptrapd サービスを停止する必要があります。**Snmpttrapd サービスを停止しない場合、UDP 161 ポートと競合する可能性があります。**

### 2.5.3. Hinemos 関連コンポーネント間の接続について

Hinemos の機能を実現している各種コンポーネント（Hinemos マネージャ、Hinemos エージェント、Hinemos クライアント、syslog-ng、SyslogForward、NTSyslog、syslog<sup>2</sup>、SNMP エージェント<sup>3</sup>、SNMP トラップエージェント）の間では、表 2-7 Hinemos 関連コンポーネント間の接続情報 で示される接続が生成されます。

表 2-7 Hinemos 関連コンポーネント間の接続情報

接続先	接続元	プロトコル <sup>4</sup>	接続先ポート
Hinemos マネージャ	Hinemos ジョブエージェント	Tcp	1098, 1099, 4444, 4445, 4446, 4457, 24457
	Hinemos ログ転送エージェント	Tcp	1098, 1099, 4444, 4445, 4446, 4457, 24457
		Udp	514 <sup>5</sup>
	Hinemos クライアント	Tcp	1098, 1099, 4444, 4445, 4446, 4457, 24457
	SyslogForward	Tcp	1098, 1099, 4444, 4445, 4446, 4457, 24457
	NTSyslog	Udp	514
	syslog (syslog-ng を含む)	Tcp	514
		Udp	514
SNMP エージェント	SNMP トラップ エージェント	Udp	162
SNMP エージェント	Hinemos マネージャ	Udp	161
他の Hinemos マネージャ <sup>6</sup>		Udp	514

<sup>2</sup> syslog 形式でメッセージを送信するソフトウェア、ネットワーク機器等を示す。

<sup>3</sup> net-snmp、ネットワーク機器等に搭載されている SNMP エージェントを示す。

<sup>4</sup> トランスポート層プロトコルを示す。

<sup>5</sup> Windows 版のログ転送エージェントの場合のみ利用される。

<sup>6</sup> 通知情報を他のマネージャに転送する場合（ログエスカレーション通知を利用する場合）

#### 2.5.4. 負荷分散装置およびファイアウォールを使用した環境での注意点

Hinemos クライアント・Hinemos マネージャ間、Hinemos エージェント・Hinemos マネージャ間に負荷分散装置やファイアウォールが存在する場合の注意事項について説明します。

負荷分散装置やファイアウォールでは、通信が行われていない状態に対する無通信タイムアウトの機能が存在する場合があります。常時張られている接続に対してこのタイムアウトが有効となると、負荷分散装置あるいはファイアウォールと Hinemos マネージャ間の接続が残存した状態となります。この場合、通信が正常に行えなくなるため、ジョブ管理機能、一部の監視管理機能（アプリケーションログ監視、syslog-ng 監視）が正しく動作しません。

上記の状態を回避するため、表 2-8 無通信タイムアウトの影響を受ける常時接続 に示される接続に対して、負荷分散装置やファイアウォールで設定されている無通信タイムアウトを無効としてください。

表 2-8 無通信タイムアウトの影響を受ける常時接続

接続先	接続元	プロトコル <sup>7</sup>	接続先ポート
Hinemos マネージャ	Hinemos エージェント	tcp	4446, 4457, 24457
	Hinemos クライアント	tcp	4446, 4457, 24457
	syslog-ng	tcp	514 <sup>8</sup>

#### 2.5.5. アドレス変換（NAT や NATP など）を使用した環境での注意点

Hinemos エージェント・Hinemos マネージャ間のネットワーク経路上に、アドレス変換を行う装置が存在する場合、ジョブ管理機能、一部の監視管理機能（アプリケーションログ監視、SNMP トラップ監視）が正しく動作しません。

また、Hinemos クライアント・Hinemos マネージャ間のネットワーク経路上にアドレス変換を行う装置が存在する場合、Hinemos クライアントから Hinemos マネージャに対して正しく接続できません。

#### 2.5.6. クライアント・エージェントが別セグメントに属する環境での注意点

JBoss が RMI 通信に利用できる IP アドレスが 1 つとなっているため、Hinemos マネー

<sup>7</sup> トランスポート層プロトコルを示す。

<sup>8</sup> **TCP 514 が無通信時にタイムアウトで無効化された場合、ログが失われます。**

ジャで使用できる IP アドレスは1つのみです。

そのため、図 2-1 別セグメントに属するネットワークのように、Hinemos クライアント・Hinemos エージェントそれぞれが属するセグメントが異なる場合、どちらかにしか Hinemos マネージャから接続できません。

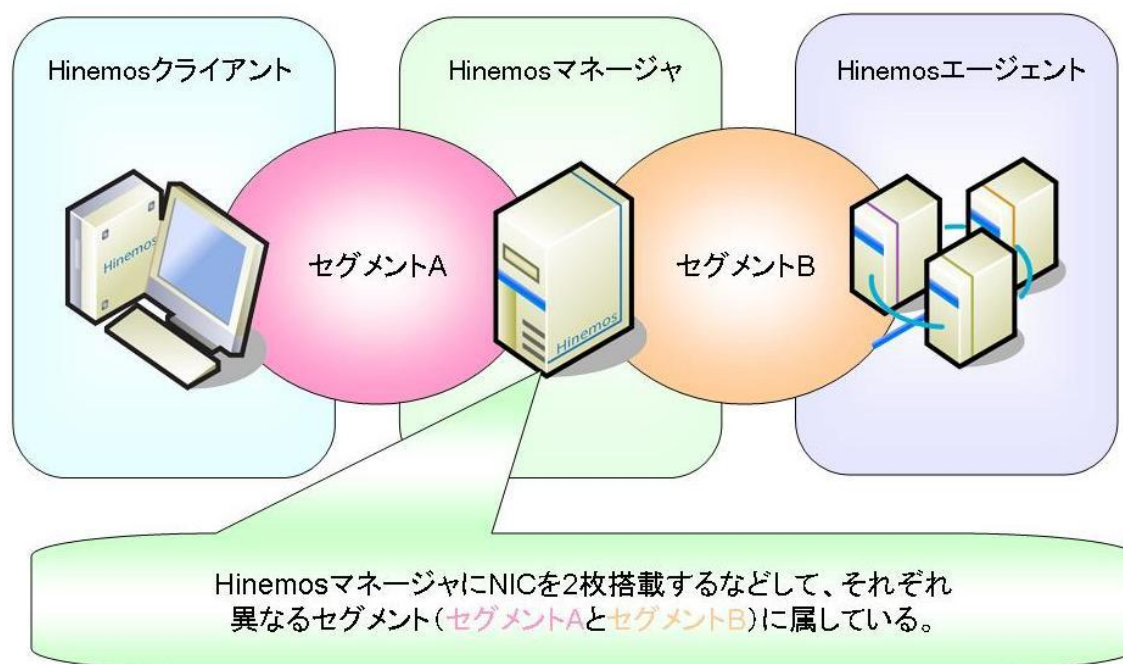


図 2-1 別セグメントに属するネットワーク

Hinemos が正常に接続するには、下記 3 種類の IP アドレスが一致している必要があります。

- Hinemos マネージャインストール時に入力した、マネージャの IP アドレス
- Hinemos クライアント接続時の IP アドレス(jnp://の後ろの IP アドレス)
- Hinemos エージェントインストール時に入力した、マネージャの IP アドレス

Hinemos クライアント、Hinemos マネージャ、Hinemos エージェントがルーティング設定や NAT やポートフォワーディング等でネットワーク的につながる状態にする必要があります。

## 2.6. ライセンス

Hinemos は、オープンソースソフトウェアです。以下のライセンスのもとで配布されています。

- GNU General Public License(GPL)

詳細については下記を参照下さい。

<http://www.gnu.org/copyleft/gpl.html>

Hinemos では、以下のソフトウェアを利用しています。

- リポジトリ機能
  - クライアント
    - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
    - Eclipse 3.3.2  
<http://www.eclipse.org/>
  - マネージャサーバ
    - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
    - JBoss 4.2.2.GA  
<http://www.jboss.org/products/index>
    - OpenLDAP 2.3.39  
<http://www.openldap.org/>
- 監視管理機能
  - クライアント
    - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
    - Eclipse 3.3.2  
<http://www.eclipse.org/>
    - JasperReports 2.0.2  
<http://jasperforge.org/sf/projects/jasperreports>
  - マネージャサーバ
    - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
    - JBoss 4.2.2.GA  
<http://www.jboss.org/products/index>
    - syslog-ng 2.0.9  
[http://www.balabit.com/products/syslog\\_ng/](http://www.balabit.com/products/syslog_ng/)
    - PostgreSQL 8.3.1  
<http://wwwmaster.postgresql.org/>
    - Quartz 1.4.5  
<http://www.opensymphony.com/quartz/>



- 管理対象ノード
    - syslog-ng 2.0.9  
[http://www.balabit.com/products/syslog\\_ng/](http://www.balabit.com/products/syslog_ng/)
    - Net-SNMP 5.1.2-11(RHEL4)
    - Net-SNMP 5.3.1-19(RHEL5)  
<http://sourceforge.net/projects/net-snmp>
  
  - 性能管理機能
    - クライアント
      - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
      - Eclipse 3.3.2  
<http://www.eclipse.org/>
      - jfreechart 1.0.9  
<http://www.jfree.org/index.php>
    - マネージャサーバ
      - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
      - JBoss 4.2.2.GA  
<http://www.jboss.org/products/index>
      - PostgreSQL 8.3.1  
<http://wwwmaster.postgresql.org/>
      - Quartz 1.4.5  
<http://www.opensymphony.com/quartz/>
      - OpenNMS 1.2.0  
<http://www.opennms.org/wiki/>  
以下のサンプルコードを改変して利用しています。  
`opennms-1.2.0-1/source/tests/src/org.opennms/test/NamedSnmpVar.java`  
`opennms-1.2.0-1/source/tests/src/org.opennms/test/snmpwalkmv.java`
  
  - 管理対象ノード
    - Net-SNMP 5.1.2-11(RHEL4)
    - Net-SNMP 5.3.1-19(RHEL5)  
<http://sourceforge.net/projects/net-snmp>
  
  - 一括制御機能
    - クライアント
      - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
      - Eclipse 3.3.2  
<http://www.eclipse.org/>
    - マネージャサーバ
      - JavaVM JRE1.5  
<http://java.com/ja/download/>
      - JBoss 4.2.2.GA  
<http://www.jboss.org/products/index>
      - PostgreSQL 8.3.1  
<http://wwwmaster.postgresql.org/>
  
  - ジョブ管理機能
    - クライアント
      - JavaVM JRE1.5
-

- <http://java.com/ja/download/>
  - Eclipse 3.3.2
    - <http://www.eclipse.org/>
- マネージャサーバ
  - JavaVM JRE1.5
    - <http://java.com/ja/download/>
  - JBoss 4.2.2.GA
    - <http://www.jboss.org/products/index>
    - 本体に加えて、以下のサンプルソースを改変して利用しています。
      - JDBCTypeFactory.java
  - PostgreSQL 8.3.1
    - <http://wwwmaster.postgresql.org/>
  - Quartz 1.4.5
    - <http://www.opensymphony.com/quartz/>
- 管理対象ノード
  - JavaVM JRE1.5
    - <http://java.com/ja/download/>
  - JBoss 4.2.2.GA
    - <http://www.jboss.org/products/index>

## 2.7. インストール・動作のための注意事項

### 2.7.1. Hinemos マネージャ

Hinemos マネージャをインストール・動作させるマシン環境では、以下の点にご注意ください。

- 他の OpenLDAP が動作している場合にはその OpenLDAP は動作しなくなる可能性があります。
- 他の PostgreSQL が動作している場合にはその PostgreSQL は動作しなくなる可能性があります。
- 他の JBoss または RMI サーバなどが動作している場合には Hinemos マネージャが動作しない可能性があります。
- rsh デーモンが動作している場合(TCP 514 ポートを使用している場合)には syslog-ng の起動に失敗する可能性があります。
- syslog-ng は syslog を置き換えて動作します。syslog に設定を行っている場合には syslog-ng にも同様の設定を行う必要があります。  
[http://www.balabit.com/products/syslog\\_ng/](http://www.balabit.com/products/syslog_ng/)
- SELinux が有効になっている場合には、syslog-ng 起動時にアクセス制御によるエラーが発生する可能性があります。

### 2.7.2. Hinemos エージェント

Hinemos エージェントをインストール・動作させるマシン環境では、以下の点にご注意ください。

- 付属のインストーラを使って同一のマシンに Hinemos マネージャと Hinemos エージェントをインストールする場合は、Hinemos マネージャをインストール後に Hinemos エージェントをインストールしてください。
- マネージャを一括制御機能の操作対象にする場合で、リモートシェルとして rsh を利用する際は、syslog-ng もしくは、rshd の待ち受けポートを変更する必要があります (syslog-ng と一括制御機能で利用する rshd は、デフォルトでは、同一のポート番号を用いているため)。マネージャを一括制御機能の操作対象にする際には、いずれかのポート番号を手動で変更する必要があります (リモートシェルで ssh を利用する場合は変更の必要はありません)。

- SELinux が有効になっている場合には、syslog-ng 起動時にアクセス制御によるエラーが発生する可能性があります。

## 3. マネージャサーバ

### 3.1. Hinemos マネージャのインストール

#### 3.1.1. ファイルの展開

hinemos\_manager-3.1.0\_rhel5\_32.tar.gz を適当なディレクトリに解凍します。(本書では、解凍先ディレクトリを” /tmp” として説明します。別のディレクトリで作業する場合は適宜読み替えてください。)

root ユーザで、hinemos\_manager-3.1.0\_rhel5\_32.tar.gz を/tmp ディレクトリに展開します。

```
# cd /tmp
# tar -zxvf hinemos_manager-3.1.0_rhel5_32.tar.gz
```

/tmp ディレクトリ直下に、Hinemos\_Manager-3.1.0\_rhel5\_32 ディレクトリが作成されます。

解凍された Hinemos\_Manager-3.1.0\_rhel5\_32 ディレクトリに移動します。

```
# cd /tmp/Hinemos_Manager-3.1.0_rhel5_32/
```

#### 3.1.2. インストーラの実行

インストーラでは以下の処理が行なわれます。

- Hinemos マネージャを実行するユーザ hinemos の作成
- 必要なファイルのコピー
- 一括制御で利用する FTP サーバの IP アドレスを設定
- JRE のインストール
- syslog-ng のインストール
- syslog の停止とリブート時の起動設定解除
- syslog-ng の起動とリブート時の起動設定
- /etc/hosts ファイルの設定
- Hinemos 用 DB の構築と初期化

- ・ 共有メモリセグメントの最大サイズを 512MB に変更 (512MB より小さい場合)
- ・ システム全体の共有メモリの最大サイズを 512MB に変更 (512MB より小さい場合)

1. root ユーザで、manager\_installer\_JP.sh を実行します。

```
# ./manager_installer_JP.sh
```

2. 確認メッセージが表示されますので、“Y” を入力してください。

```
Hinemos マネージャのインストールを開始します。よろしいですか? (Y/N default:Y)
Y
```

3. ユーザ hinemos のパスワードを設定します。

以下のような出力の後、パスワードの入力を求められます。ユーザ hinemos のパスワードを入力してください。

```
ユーザ hinemos を作成します。
Changing password for user hinemos.
New password: (パスワードを入力します。入力内容は画面に表示されません)
Retype new password: (パスワードを再入力します。)
```

4. 以下のような出力の後、マネージャサーバの IP アドレスの入力が求められます。マネージャサーバの IP アドレスを入力してください。

```
マネージャの IP アドレスを設定します。
現在マネージャをインストールしているマシンの IP アドレスを入力してください。
192.168.0.1
```

入力した IP アドレスの確認が出力されますので、問題なければ Y と入力してください。

```
192.168.0.1 でよろしいですか? (Y/N default:Y)
Y
```

5. JBoss 起動ユーザを設定します。

以下のような出力の後、JBoss 起動ユーザの入力が求められますので入力してください。  
SNMP トラップ監視機能を使用する場合は root ユーザを指定する必要があります。

```
JBoss 起動ユーザを入力してください。(hinemos/root default:hinemos)
hinemos
```

入力したユーザの確認が出力されますので、問題なければ Y と入力してください。

```
hinemos でよろしいですか? (Y/N default:Y)
Y
```

6. 一括制御機能で利用する FTP サーバの IP アドレスを設定します。

以下のような出力の後、IP アドレスの入力が求められます。FTP サーバの IP アドレスを入力してください。

```
必要なファイルをインストールディレクトリにコピーします。
一括制御で利用する FTP サーバの IP アドレスを入力してください。(default:127.0.0.1)
192.168.0.1
```

7. Sun JRE の利用許諾に同意します。

同意しない場合は、jre がインストールされませんので、別途用意する必要があります。

```
必要なファイルのコピーが終了しました。
```

```
JRE のインストールをおこないます。
```

```
Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement
```

```
for the JAVA 2 PLATFORM STANDARD EDITION RUNTIME ENVIRONMENT
```

```
5.0
```

```
中略
```

```
For inquiries please contact: Sun Microsystems, Inc., 4150
Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A.
(LFI#143333/Form ID#011801)
```

```
Do you agree to the above license terms? [yes or no]
```

```
yes
```

続けて、syslog-ng のインストールと設定、syslog の停止と syslog-ng の起動を行います。

(注 1)

```
syslog-ng のインストールを行います。
```

```
準備中... ##### [100%]
 1:libevtlog0 ##### [ 50%]
 2:syslog-ng ##### [100%]
```

```
syslog-ng をインストールしました。
```

```
syslog を停止し、syslog-ng を起動します。
```

```
カーネルロガーを停止中: [ OK ]
```

```
システムロガーを停止中: [ OK ]
```

---

---

システムロガーを起動中:

[ OK ]

8. /etc/hosts ファイルを変更します。

以下のように出力されますので、問題なければ Y と入力してください。

/etc/hosts ファイルを変更します。  
変更してもよろしいですか? (Y/N)

9. システム全体の共有メモリの最大サイズを 512MB に変更します。

以下のように出力されますので、問題なければ Y と入力してください。

データベースの初期化を行います。  
共有メモリセグメントの最大サイズは 33554432 です。  
536870912(512MB) に変更してもよろしいですか? (Y/N default:Y)  
Y

10. 共有メモリセグメントの最大サイズが 512MB より小さい場合、512MB に変更します。

以下のように出力されますので、問題なければ Y と入力してください。出力されない場合は変更の必要はありません。

システム全体の共有メモリの最大サイズは 100000 です。  
131072(512MB) に変更してもよろしいですか? (Y/N default:Y)  
Y

下記メッセージが表示されれば、インストールは完了です。

```
waiting for postmaster to start... done
postmaster started
CREATE DATABASE
ALTER ROLE
waiting for postmaster to shut down... 2008-03-26 17:56:16 JSTLOG: logger shutting down
done
postmaster stopped

LDAP の初期化を行います。
LDAP の初期化が完了しました。

Hinemos マネージャのインストールが完了しました。
```

インストーラ終了後、syslog-ng 経由でログ転送用 Java アプリケーションが起動していることを下記コマンドで確認します。

```
$ ps -ef | grep /opt/hinemos/
```



以下のプロセスが起動していることを確認します。

```
/opt/hinemos/jre1.5.0_15/bin/java -cp  
/opt/hinemos/lib/syslogforward:/opt/hinemos/lib/MonitorEJB.jar:/opt/hinemos/lib/Syslog  
NGEJB.jar:/opt/hinemos/lib/commons-logging.jar:/opt/hinemos/lib/log4j.jar:/opt/hinem  
os/lib/hinemos-commons.jar:/opt/hinemos/lib/RepositoryEJB.jar:/opt/hinemos/lib/Calend  
arEJB.jar:/opt/hinemos/lib/clustercontrol.jar:/opt/hinemos/lib/jbossall-client.jar:/o  
pt/hinemos/lib/syslogforward/syslogforward.jar:  
com.clustercontrol.syslogng.forward.LogForward  
/opt/hinemos/lib/syslogforward/LogForward.properties
```

以上で、Hinemos マネージャのインストールは完了です。

Hinemos マネージャの起動の前に **hosts** ファイルの設定で設定内容を確認してください。

注) 本インストーラによりマネージャの基本的な設定が行われますが、Hinemos を効果的に使うためには更なる追加設定が必要となります。以下の機能を有効にするためには Hinemos 設定リファレンスを参照し追加設定を行ってください。

- Hinemos マネージャをサービス化する
- 性能管理・監視管理のデータ収集に関する設定を変更する
- 一括制御を有効にする
- SNMP トラップ監視を有効にする
- ログ転送エージェントを有効にする

また、Hinemos マネージャの初期インストールではセキュリティが十分でない可能性があります。セキュリティに関する設定を変更するには、Hinemos 設定リファレンスをご覧ください。

• hosts ファイルの設定

マネージャサーバの名前解決の設定を行なった以下のファイルを確認します。

/etc/hosts

```
# Do not remove the following line, or various programs
# that require network functionality will fail.
127.0.0.1      localhost.localdomain localhost
192.168.0.1   manager manager.nosuchdomain.com
```

以下のように設定されているか確認してください。

*IP アドレス*    *ホスト名*   *ホスト名の FQDN*

ここで設定する IP アドレスは、Hinemos クライアントからアクセスする IP アドレスを設定します。

注) IP アドレス 127.0.0.1 の行にホスト名が設定されていないことを確認して下さい。

- × 127.0.0.1        manager localhost.localdomain localhost
- 127.0.0.1        localhost.localdomain localhost

• IPv6 の無効化

IPv6 のモジュールを無効にしていると syslog-ng の起動に失敗します。

IPv6 を無効にしている場合は、以下の設定ファイルを編集し、syslog-ng の IPv6 での待ち受けを無効にします。

該当箇所を変更後に syslog-ng を起動させて下さい。

設定ファイル :

/etc/syslog-ng/syslog-ng.conf

変更内容 :

```
source s_net { tcp(ip(0.0.0.0) port(514) max-connections(70)); tcp6(ip(::0)
port(1514)); udp(ip(0.0.0.0) port(514)); udp6(ip(::0) port(514)); };
```

↓ (tcp6, udp6 の定義を削除)

```
source s_net { tcp(ip(0.0.0.0) port(514) max-connections(70)); udp(ip(0.0.0.0)
```

```
port(514)); };
```

syslog-ng の起動 :

```
# service syslog-ng start
```

## 3.2. Hinemos マネージャの起動

### 3.2.1. 起動方法

ユーザ hinemos で、以下のコマンドを実行します。(インストール時に JBoss の実行ユーザを root に設定した場合は、JBoss の実行ユーザは hinemos ではなく、root にしてください。)

```
$ cd /opt/hinemos/bin
$ ./hinemos_start.sh
Hinemos starting

waiting for postmaster to start.... done
postmaster started

waiting for slapd to start...
done
slapd started

waiting for jboss to start...
..... done
jboss started
Hinemos started
```

という表示が出力されれば Hinemos マネージャの起動は完了です。

### 3.2.2. 起動の確認

下記コマンドで起動しているプロセスを確認します。

```
$ ps -ef | grep /opt/hinemos/
```

以下の3つのプロセスが起動していることを確認します。

- PostgreSQL

```
/opt/hinemos/postgresql-8.3.1/bin/postgres -D /opt/hinemos/var/data
```

- OpenLDAP

```
/opt/hinemos/openldap-2.3.39/libexec/slapd -h ldap://0.0.0.0:24000/
```

- JBoss

```
/opt/hinemos/jre1.5.0_15/bin/java -server -Xms512m -Xmx512m
-Dcom.sun.jndi.ldap.connect.pool.maxsize=100
-Dcom.sun.jndi.ldap.connect.pool.prefsiz=5
-Dcom.sun.jndi.ldap.connect.pool.timeout=300000 -Dprogram.name=run_hinemos.sh
-Djava.endorsed.dirs=/opt/hinemos/jboss-4.2.2.GA/lib/endorsed -classpath
/opt/hinemos/jboss-4.2.2.GA/bin/run.jar:/opt/hinemos/jre1.5.0_15/lib/tools.jar
org.jboss.Main
```

プロセスは起動しているが、Hinemos マネージャにログインできない場合などは、Hinemos 設定リファレンス「マネージャのログファイル一覧」を参考に、JBoss のログを確認してください。

### 3.3. Hinemos マネージャの停止

#### 3.3.1. 停止方法

ユーザ hinemos で、以下のコマンドを実行します。(インストール時に JBoss の実行ユーザを root に設定した場合は、JBoss の実行ユーザは hinemos ではなく、root にしてください。)

```
$ cd /opt/hinemos/bin
$ ./hinemos_stop.sh
Hinemos stopping.

waiting for jboss to stop...
Shutdown message has been posted to the server.
Server shutdown may take a while - check logfiles for completion
...done
jboss stoped

waiting for slapd to stop...
slapd stopped.

waiting for postmaster to shut down.... done
postmaster stopped

Hinemos stopped.
```

という表示が出力され、プロンプトが入力可能となると Hinemos マネージャの停止は完了です。ただし、ログ転送用 Java アプリケーションプロセスは停止しません。

ログ転送用 Java アプリケーションプロセスを停止するには、syslog-ng プロセスを停止

する必要があります。システムロガーのプロセスを停止した状態での運用には問題があるかと思いますので、`syslog-ng` プロセス停止後は、`syslog` を起動することをお勧めします。

マネージャサーバの `syslog-ng` を停止し、`syslog` を起動するには、`root` ユーザで以下のコマンドを実行してください。

```
# service syslog-ng stop
システムロガーを停止中:           [ OK ]
# service syslog start
システムロガーを起動中:           [ OK ]
カーネルロガーを起動中:           [ OK ]
```

### 3.3.2. 停止の確認

下記コマンドで起動しているプロセスを確認します。

```
$ ps -ef | grep /opt/hinemos/
```

3.2.2 起動の確認 に記述されている 3つのプロセスが停止していることを確認します。

## 3.4. Hinemos マネージャのアンインストール

Hinemos マネージャのアンインストールは、以下の手順で行います。

1. `hinemos_manager-3.1.0_rhel5_32.tar.gz` を適当なディレクトリに解凍します。(本書では、解凍先ディレクトリを”`tmp`”として説明します。別のディレクトリで作業する場合は適宜読み替えてください。)
2. アンインストール用スクリプト (`manager_uninstaller_JP.sh`) を実行します。

### 3.4.1. ファイルの展開

1. `root` ユーザで、`hinemos_manager-3.1.0_rhel5_32.tar.gz` を `/tmp` ディレクトリに展開します。

```
# cd /tmp
# tar -zxvf /tmp/hinemos_manager-3.1.0_rhel5_32.tar.gz
```

`/tmp` ディレクトリ直下に、`Hinemos_Manager-3.1.0_rhel5_32` ディレクトリが作成されます。

2. 解凍された Hinemos\_Manager-3.1.0\_rhel5\_32 ディレクトリに移動します。

```
# cd /tmp/Hinemos_Manager-3.1.0_rhel5_32/
```

### 3.4.2. アンインストール

アンインストールでは以下の処理が行われます。

- syslog-ng のアンインストール
- syslog の起動とリブート時の起動設定
- Hinemos マネージャファイル (/opt/hinemos ディレクトリ以下) の削除
- ユーザ hinemos の削除
- 共有メモリセグメントの最大サイズの設定を削除
- システム全体の共有メモリの最大サイズの設定を削除

1. root ユーザで manager\_uninstaller\_JP.sh を実行します。

```
# ./manager_uninstaller_JP.sh
```

2. 確認メッセージが表示されますので、“Y” を入力します。

```
Hinemos をアンインストールします。よろしいですか?(Y/N)  
Y
```

3. syslog-ng の削除の確認メッセージが表示されますので、Hinemos マネージャアンインストール後に syslog-ng を利用しない場合には“Y”を入力します。syslog-ng を利用する場合には“N”を入力します。

```
syslog-ng をアンインストールします。よろしいですか?(Y/N)  
Y
```

4. ユーザ hinemos のアカウントを削除するかの質問に回答します。

Hinemos マネージャのアンインストール後に hinemos ユーザを利用しない場合には、“Y”を入力します。(hinemos ユーザのホームディレクトリ : /home/hinemos も削除されます。) hinemos ユーザを利用する場合には“N”を入力します。

```
システムロガーを停止中:
```

```
[ OK ]
```

```
システムロガーを起動中: [ OK ]
カーネルロガーを起動中: [ OK ]
警告: /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf saved as /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf.rpmsave
syslog-ng をアンインストールしました。

syslog-ng.conf のバックアップファイルが作成されました。
/etc/syslog-ng/syslog-ng.conf.rpmsave
アンインストール完了後、確認してください。

ユーザ hinemos を削除します。(ユーザ hinemos のホームディレクトリも削除します。)
よろしいですか?(Y/N)
Y
```

続いて、以下のようなメッセージが表示されれば、アンインストールは完了です。

```
ユーザ hinemos を削除しました。

/opt/hinemos を削除します。
/opt/hinemos を削除しました。

以下の設定については、hinemos 以外でも使用されている可能性があるため変更しません。
・ /etc/hosts ファイルの設定
・ カーネルメモリ (SHMMAX, SHMALL) の設定
詳細については、インストールマニュアルを参照ください。

アンインストールが完了しました。
```

注) 以下の設定は Hinemos 以外でも使用されている可能性があるため、アンインストーラでは修正しません。

- ・ /etc/hosts ファイルの設定
- ・ 共有メモリセグメントの最大サイズおよび、システム全体の共有メモリの最大サイズ

## 3.5. 注意事項

### 3.5.1. syslog-ng の停止

マネージャノードの JBoss を長期間停止する場合は、syslog-ng を停止して syslog を起動するようにしてください。

この操作が必要な理由および、手順については、ユーザマニュアルの注意事項を参照ください。



### 3.5.2. ファイルディスクリプタの設定

1 台の Hinemos マネージャが管理する Hinemos エージェントが多くなった場合、Hinemos マネージャのログファイル (`/opt/hinemos/var/log/jboss.log`) に、以下のログが出力されることがあります。

```
(Too many open files)
```

このログが出力された場合、ファイルディスクリプタ数が上限値に達しているため、変更が必要です。以下の手順により、ファイルディスクリプタ数の上限値を変更してください。

Hinemos マネージャがインストールされているサーバの、`/opt/hinemos/hinemos.cfg` に対して、以下の1行を追記します。(RedHat Enterprise Linux 5 のデフォルト値である 1024 から 2048 に変更する例を示します)

```
ulimit -n 2048
```

追記後、Hinemos マネージャを再起動してください。

### 3.5.3. データソースの設定

Hinemos (JBoss 上のアプリケーション) がプールするコネクション数の上限を超えて、PostgreSQL への接続要求が出ている場合、Hinemos マネージャのログファイル (`/opt/hinemos/var/log/jboss.log`) に、以下のログが出力され、Hinemos の各処理が必要とする情報を内部データベースから取得できない状態となります。

```
ERROR [org.jboss.ejb.plugins.LogInterceptor] ...  
javax.ejb.EJBException: No ManagedConnections available within configured  
blocking timeout ( 30000 [ms] );
```

以下の手順により、Hinemos のデータソースの設定を変更します。(本設定値は、Hinemos ver. 3.1.4 以降のデフォルト値となっています。)

PostgreSQL の最大接続数を変更します。`/opt/hinemos/etc/postgresql.conf` に定義されている最大接続数を以下のように変更します。

---

---

```
max_connections = 400 # (change requires restart)
```

Hinemos がプールする接続数の上限値を変更します。/opt/hinemos/etc/hinemos-ds.xml に定義されている最大接続数を以下のように変更します。

```
<max-pool-size>150</max-pool-size>
```

設定変更後、Hinemos マネージャを再起動してください。

## 4. 管理対象ノード (Windows)

Hinemos では、Windows Server を管理対象とするために、エージェントパッケージを用意しています。Windows 用エージェントパッケージのインストールおよび設定方法については「Hinemos ver3.1 エージェント for Windows セットアップガイド」を参照下さい。

## 5. 管理対象ノード (Red Hat Enterprise Linux)

### 5.1. Hinemos エージェントのインストール

Hinemos エージェントのインストール手順を示します。ここでは root ユーザでのインストール、起動方法について説明しますが、一般ユーザで Hinemos エージェントのジョブ管理機能をインストール起動することにより、ジョブの実行権限を一般ユーザの実行権限内に制限することができます。

#### 5.1.1. ファイルの展開

hinemos\_agent-3.1.0\_rhel4\_32.tar.gz を適当なディレクトリに解凍します。(本書では、RHEL4 版エージェントを例として、インストール手順を解説します。また、解凍先ディレクトリを”/tmp”として解説していきます。RHEL5 版エージェントをインストールする場合や、別のディレクトリで作業する場合は適宜読み替えてください。)

1. root ユーザで、hinemos\_agent-3.1.0\_rhel4\_32.tar.gz を/tmp ディレクトリに展開します。

```
# cd /tmp
# tar -zxvf hinemos_agent-3.1.0_rhel4_32.tar.gz
```

/tmp ディレクトリ直下に、Hinemos\_Agent-3.1.0\_rhel4\_32 ディレクトリが作成されます。

2. 解凍された Hinemos\_Agent-3.1.0\_rhel4\_32 ディレクトリに移動します。

```
# cd /tmp/Hinemos_Agent-3.1.0_rhel4_32
```

#### 5.1.2. インストーラの実行

インストーラでは以下の処理が行なわれます。

- /etc/hosts ファイルのチェック
- net-snmp パッケージのチェック
- 一括制御機能利用パッケージのチェック
- 必要なファイルのコピー
- マネージャ IP アドレスの設定

- JRE のインストール
- Net-SNMP のセットアップ
- syslog-ng のインストール
- syslog の停止とリブート時の起動設定解除
- syslog-ng の起動とリブート時の起動設定

インストーラ (agent\_installer\_JP.sh) を実行します。

1. root ユーザで、agent\_installer\_JP.sh を実行します。

```
# ./agent_installer_JP.sh
```

メニューが表示されます。

```
#####  
###                                     ###  
### 運用管理ソフトウェア Hinemos エージェント   ###  
###                                     インストーラ   Ver 3.1.0   ###  
###                                     ###  
### Copyright (C) since 2006 NTT DATA Corporation.   ###  
#####  
Hinemos エージェント の  
    1) インストール  
    2) アンインストール  
    9) インストーラの終了  
  
==>
```

2. プロンプトに“1”を入力します。
3. インストール開始の確認メッセージが表示されますので、“Y”を入力します。インストール前に/etc/hostsファイルのチェックとnet-snmpパッケージのチェックと一括制御機能利用パッケージのチェックを行います。インストール先ディレクトリの/opt/hinemos\_agentが作成されていない場合、ここで作成されます。

```
==> 1
```

エージェントセットアップを行います。

インストールを開始します。よろしいですか?(Y/N)

Y

```
/etc/hosts のチェックを行います。  
OK
```

```
パッケージのチェックを行います。  
OK
```

```
インストールディレクトリ /opt/hinemos_agent の確認を行います。  
インストールディレクトリ /opt/hinemos_agent は存在しません。作成します。  
mkdir -p /opt/hinemos_agent
```

4. マネージャの IP の入力を求められます。マネージャサーバの IP アドレスを入力してください。入力しますと、続けて必要な機能のインストールが実施されます。

```
マネージャの IP アドレスを入力してください : 192.168.0.1  
192.168.0.1 でよろしいですか? (Y/N default:Y)  
Y
```

```
必要なファイルのコピーを開始します。  
必要なファイルのコピーが終了しました。
```

5. Sun JRE の利用許諾に同意します  
同意しない場合には、jre がインストールされないので、別途用意する必要があります。

```
JRE のインストールをおこないます。
```

```
Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement
```

```
for the JAVA 2 PLATFORM STANDARD EDITION RUNTIME ENVIRONMENT  
5.0
```

```
中略
```

```
For inquiries please contact: Sun Microsystems, Inc., 4150  
Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A.  
(LFI#143333/Form ID#011801)
```

```
Do you agree to the above license terms? [yes or no]  
yes
```

続けて Net-SNMP セットアップ (注 1)、syslog-ng のインストールとセットアップ (注 2)

が行われます。

```
Net-SNMP のセットアップを行います。
/etc/init.d/snmpd restart
snmpd を停止中: [失敗]
snmpd を起動中: [ OK ]

syslog-ng をセットアップします。
Preparing... ##### [100%]
 1:syslog-ng ##### [ 50%]
 2:libevtlog0 ##### [100%]
カーネルロガーを停止中: [ OK ]
システムロガーを停止中: [ OK ]
システムロガーを起動中: [ OK ]
```

以下のように出力され、再度メニューが表示されればエージェントのインストールは完了です。

```
Hinemos エージェントをインストールしました。

Hinemos エージェント の
 1) インストール
 2) アンインストール
 9) インストーラの終了

==>
```

6. プロンプトに“9”を入力し、インストーラを終了します。

```
Hinemos エージェント の
 1) インストール
 2) アンインストール
 9) インストーラの終了

==> 9
Hinemos インストーラを終了します。
```

以上で、Hinemos エージェントのインストールは終了です。

注 1) Net-SNMP がインストールされていない場合は、セットアップを行いません。エージェントインストール後に Net-SNMP の設定を行う場合は、Hinemos 設定リファレンス「性能管理機能、監視管理機能を有効にする」を参照し設定をおこなってください。

注 2) 既に syslog-ng がインストールされている場合はインストールと設定を行いません。

エージェントインストール後に syslog-ng の設定を行う場合は、Hinemos 設定リファレンス「ログ転送エージェントを有効にする」を参照しインストーラで設定される部分の追記を行ってください。

## 5.2. Hinemos エージェントの起動と停止

### 5.2.1. Hinemos ジョブエージェントの起動

root ユーザで、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /opt/hinemos_agent/bin  
# ./agent_start.sh
```

### 5.2.2. Hinemos ログ転送エージェントの起動

root ユーザで、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /opt/hinemos_agent/bin  
# ./log_agent_start.sh
```

### 5.2.3. syslog-ng の起動

root ユーザで、以下のコマンドを実行します。

```
# service syslog-ng start
```

### 5.2.4. NET-SNMP の起動

root ユーザで、以下のコマンドを実行します。

```
# service snmpd start
```

### 5.2.5. Hinemos ジョブエージェントの停止

root ユーザで、以下のコマンドを実行します。



```
# cd /opt/hinemos_agent/bin
# ./agent_stop.sh
```

ジョブエージェント停止時に実行中であるジョブに関しては /opt/hinemos\_agent/var/log/agents.log にログが出力されます。

出力形式：

```
YYYY-MM-DD HH:mm:ss,SSS INFO ReceiveTopic - A running job is out of control due to stopped
agent : セッション ID, ジョブ ID, STATUS (内部コード)
```

出力例：

```
# cat /opt/hinemos_agent/var/log/agents.log
(略)
2009-11-13 11:18:06,195 INFO ReceiveTopic - A running job is out of control due to stopped
agent : 20091113111800-000, J02, 0
```

### 5.2.6. Hinemos ログ転送エージェントの停止

root ユーザで、以下のコマンドを実行します。

```
# cd /opt/hinemos_agent/bin
# ./log_agent_stop.sh
```

注) ジョブエージェント・ログ転送エージェントのサービス起動については、Hinemos 設定リファレンス「Hinemos エージェントをサービス化する」を参照ください。

### 5.3. Hinemos エージェントのアンインストール

Hinemos エージェントのアンインストールは、以下の手順で行います。

1. hinemos\_agent-3.1.0\_rhel4\_32.tar.gz を適当なディレクトリに解凍します。(本書では、解凍先ディレクトリを”/tmp”として説明します。別のディレクトリで作業する場合は適宜読み替えてください。)
2. スクリプト agent\_installer\_JP.sh を実行します (インストールスクリプトでアンインストールを行いません)。

### 5.3.1. ファイルの展開

1. root ユーザで、hinemos\_agent-3.1.0\_rhel4\_32.tar.gz を/tmp ディレクトリに展開します。

```
# cd /tmp
# tar -zxvf /tmp/hinemos_agent-3.1.0_rhel4_32.tar.gz
```

/tmp ディレクトリ直下に、Hinemos\_Agent-3.1.0\_rhel4\_32 ディレクトリが作成されます。

2. 解凍された Hinemos\_Agent-3.1.0\_rhel4\_32 ディレクトリに移動します。

```
# cd /tmp/Hinemos_Agent-3.1.0_rhel4_32
```

### 5.3.2. アンインストール

アンインストールでは以下の処理が行われます。

- syslog-ng のアンインストール
- syslog の起動とリブート時の起動設定
- NET-SNMP を停止
- Hinemos ジョブエージェントの削除
- Hinemos ログ転送エージェントの削除
- リモートシェルの設定の復元

1. root ユーザにスイッチユーザし、/tmp/Hinemos\_Agent-3.1.0\_rhel4\_32 に移動します。

```
$ su -
# cd /tmp/Hinemos_Agent-3.1.0_rhel4_32
```

2. root ユーザで agent\_installer\_JP.sh を実行します。

```
# ./agent_installer_JP.sh
```

3. メニューが表示されます。  
アンインストールを実行します。プロンプトに“2”を入力します。

```
#####  
###                                     ###  
### 運用管理ソフトウェア Hinemos エージェント   ###  
###                                     インストーラ   Ver 3.1.0  ###  
###                                     ###  
### Copyright (C) since 2006 NTT DATA Corporation.   ###  
#####  
注意 このインストールは root で行って下さい。  
Hinemos エージェント の  
  1) インストール  
  2) アンインストール  
  9) インストーラの終了  
  
==>2
```

4. アンインストールを実行します。“Y”を入力します。

```
Hinemos エージェントをアンインストールします。よろしいですか?(Y/N)  
Y
```

以下のように表示され、再度メニューが表示されればアンインストールは完了です。

5. syslog-ng のアンインストール

syslog-ng のアンインストールの確認メッセージが表示されますので、Hinemos エージェントアンインストール後に syslog-ng を利用しない場合には” Y”を入力します。

```
syslog-ng をアンインストールします。よろしいですか?(Y/N)  
Y
```

6. Net-SNMP の設定変更

Net-SNMP の設定変更の確認メッセージが表示されますので、Hinemos エージェントインストール直前の状態に snmpd.conf を戻す場合は、“Y”を入力します。(注 1)

```
システムロガーを停止中: [ OK ]  
システムロガーを起動中: [ OK ]  
カーネルロガーを起動中: [ OK ]  
警告: /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf saved as /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf.rpmsave  
syslog-ng をアンインストールしました。  
  
syslog-ng.conf のバックアップファイルが作成されました。  
  /etc/syslog-ng/syslog-ng.conf.rpmsave  
アンインストール完了後、確認してください。
```

```
net-snmp の設定を変更します。  
Hinemos エージェントインストール直前の状態に net-snmp の設定を戻しますか？ (Y/N)  
Y
```

続いて、以下のようなメッセージが表示されれば、アンインストールは完了です。

```
snmpd を停止中： [ OK ]  
snmpd を起動中： [ OK ]  
設定を戻しました。  
  
/opt/hinemos_agent を削除します。  
/opt/hinemos_agent を削除しました。
```

7. プロンプトに“9”を入力し、アンインストーラを終了します。

```
Hinemos エージェント の  
  1) インストール  
  2) アンインストール  
  9) インストーラの終了  
  
==> 9  
Hinemos インストーラを終了します。
```

注 1) snmpd.conf の設定を戻した場合、今までの設定は、snmpd.conf\_bk という名前でリネームされています。

## 6. クライアント (Windows XP)

### 6.1. Hinemos クライアントのインストール

#### 6.1.1. インストーラの実行

インストーラでは以下の処理が行なわれます。

- hinemos\_client フォルダを作成
- hinemos\_client フォルダに必要なファイルをコピー

以下の手順で、インストーラ (HinemosClientInstaller-3.1.0.msi) を実行します。

1. HinemosClientInstaller-3.1.0.msi を実行します。



図 6-1 Hinemos クライアントセットアップウィザード

2. “次へ” をクリックすると以下のメッセージダイアログが表示されますので、許諾を読み、使用許諾契約書の内容に同意しますにチェックをし、“次へ” をクリックします。



図 6-2 Hinemos クライアントの使用許諾契約書

3. JRE に関する使用許諾契約書の内容を読み、使用許諾契約書の内容に同意しますにチェックを入れ”次へ”をクリックします。

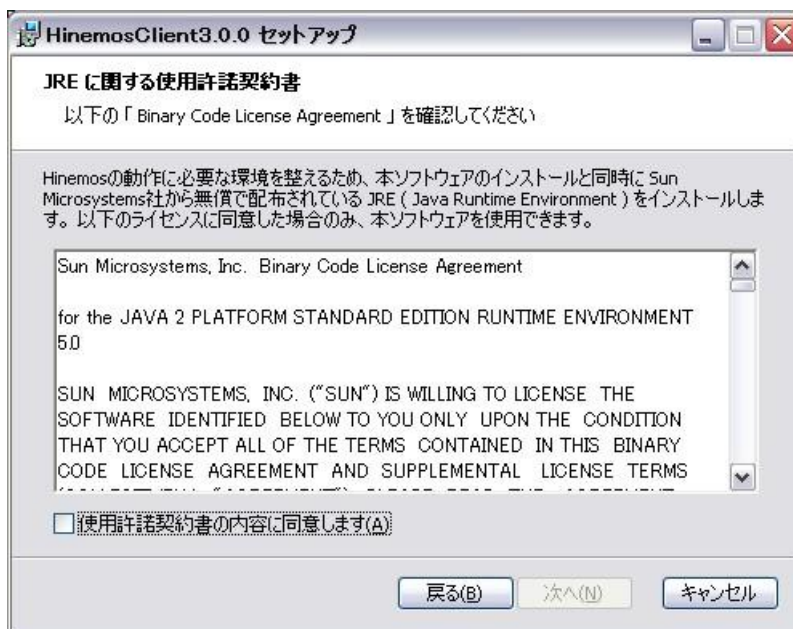


図 6-3 JRE に関する使用許諾契約書

4. インストール先フォルダを入力し、“次へ”をクリックします。



図 6-4 インストールフォルダの設定

5. “インストール”をクリックします。



図 6-5 インストールの開始

6. インストールが完了すると、下記のメッセージダイアログが表示されますので、”完了” ボタンをクリックします。



図 6-6 Hinemos クライアントセットアップウィザードの終了

以上で、Hinemos クライアントのインストールは完了です。フォルダ C:\Program Files\Hinemos\Client3.1.0 に、Hinemos クライアントがインストールされます。



## 6.2. Hinemos クライアントの起動

1. スタート→すべてのプログラム→Hinemos→Clinet3.1.0→HinemosClient3.1.0 をクリックします。



図 6-7 ログイン画面

2. インストール直後であれば、下記を入力し”ログイン”をクリックします。

ユーザ ID : hinemos  
パスワード : hinemos  
接続先 URL : jnp://{マネージャの IP アドレス}:1099

3. 初回起動時は、図 6-8 初期画面のような画面が表示されます。

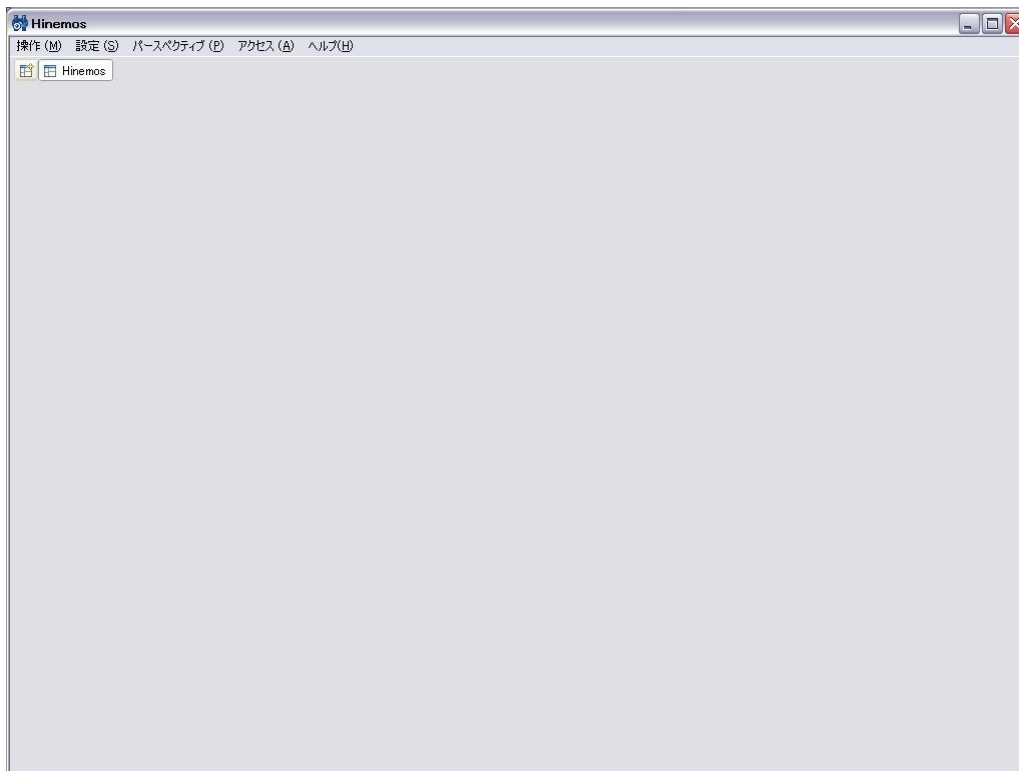
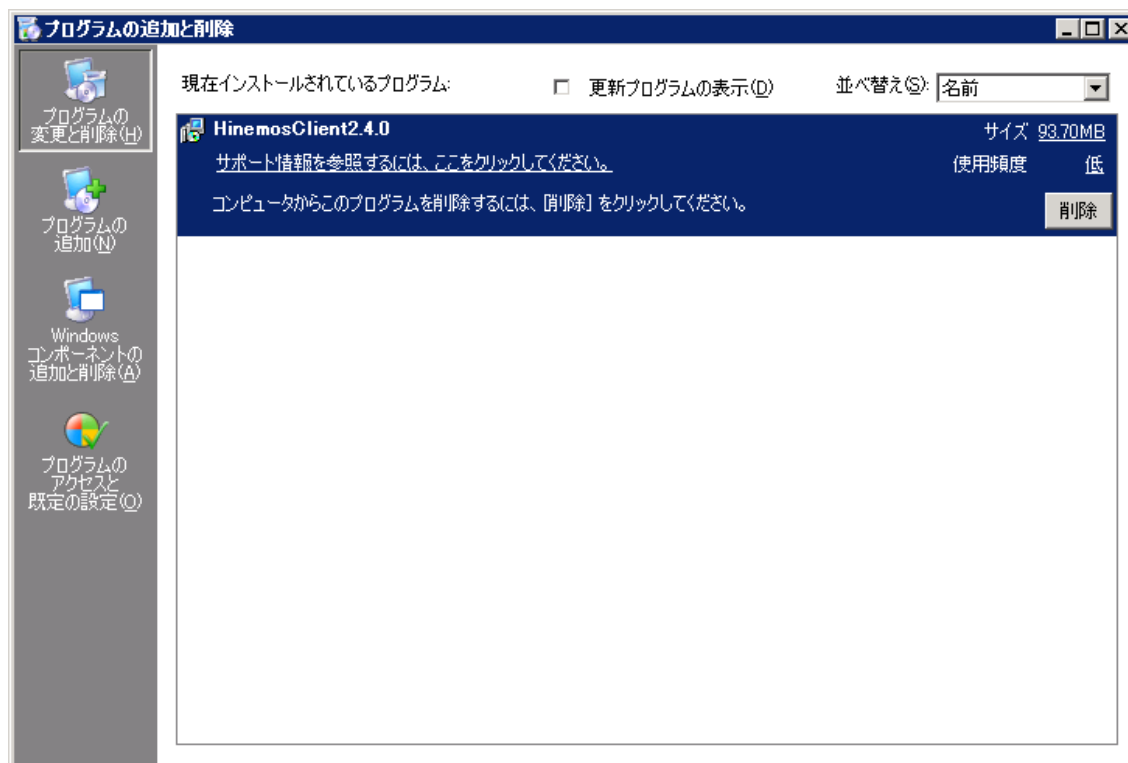


図 6-8 初期画面

### 6.3. Hinemos クライアントのアンインストール

コントロールパネル→プログラムの追加と削除を選択します。



HinemosClient3.1.0 を選択し、“削除”をクリックします。

## 7. クライアント (Windows Vista)

### 7.1. Hinemos クライアントのインストール

Hinemos クライアントのインストール手順については、6.1 と同様です。

ただし、Windows Vista に対して Hinemos クライアントをインストールする場合は、テーマを「Windows クラシック」に設定することと、アプリケーションをインストールするための管理者権限があることが必要です。

- テーマを「Windows クラシック」に設定する  
デスクトップを右クリックし、「個人設定」より「テーマ」を選択します。図 7-1 に示すダイアログが表示されますので、テーマを「Windows クラシック」に設定してください。



図 7-1 テーマを「Windows クラシック」に設定する

- アプリケーションをインストールするための管理者権限  
インストール時に、図 7-2 に示すダイアログが表示されます。Hinemos クライアントインストーラであることを確認し、許可をクリックしてインストールを進めてください。

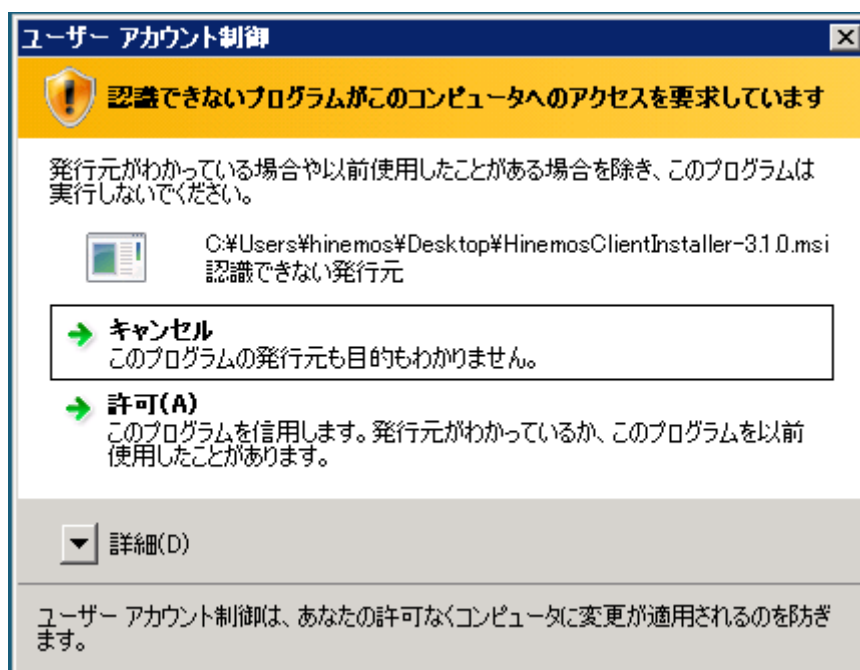


図 7-2 Hinemos クライアントインストール時の警告ダイアログ

## 7.2. Hinemos クライアントの起動

Hinemos クライアントの起動手順は、6.2 と同様です。

## 7.3. Hinemos クライアントのアンインストール

コントロールパネル→プログラムと機能を選択します。

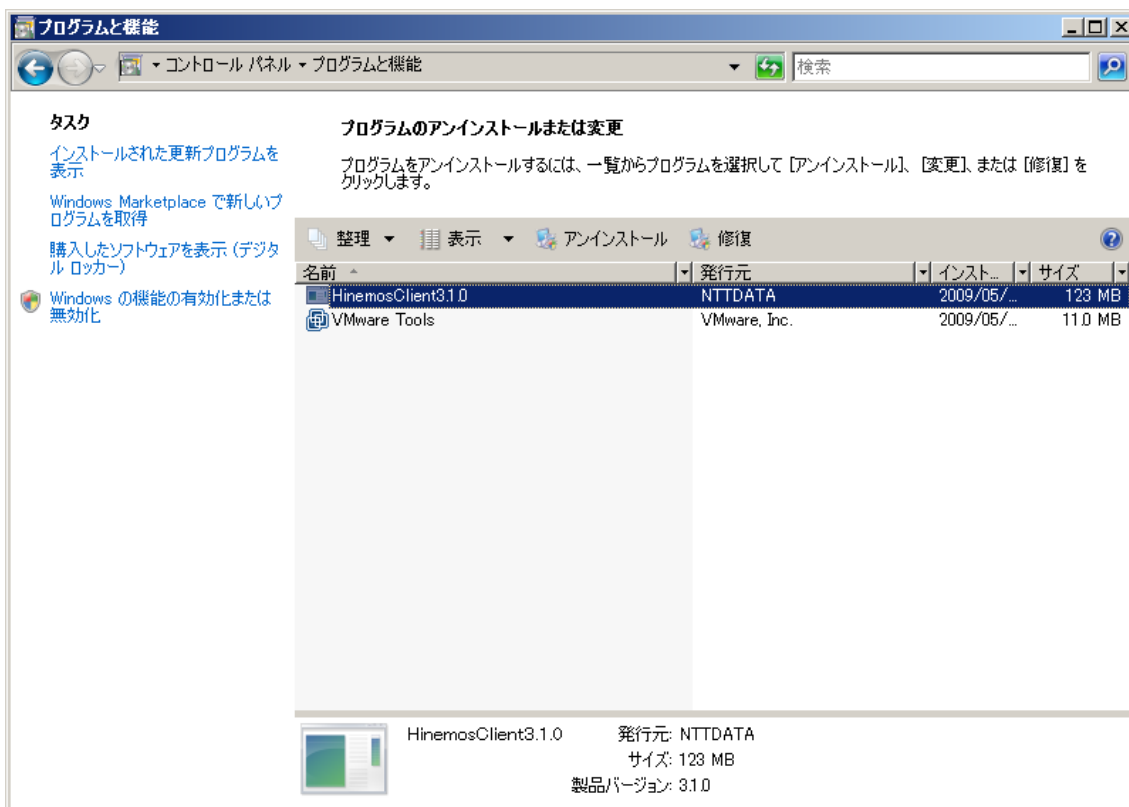


図 7-3 Hinemos クライアントをアンインストールする

図 7-3 のダイアログが表示されたら、Hinemos クライアントを選択し、アンインストールを押下します。アンインストール時に、図 7-2 のようなインストール時と同様の警告ダイアログが表示された場合は、許可を選択してください。